

2023年3月期第2四半期 決算説明会

2022年10月26日

 日立建機株式会社

執行役常務CFO 塩嶋 慶一郎

執行役CMO 松井 英彦

1. 地域別市場環境と見通しについて

執行役CMO

松井 英彦

地域別市場環境と見通しについて、松井よりご説明致します。

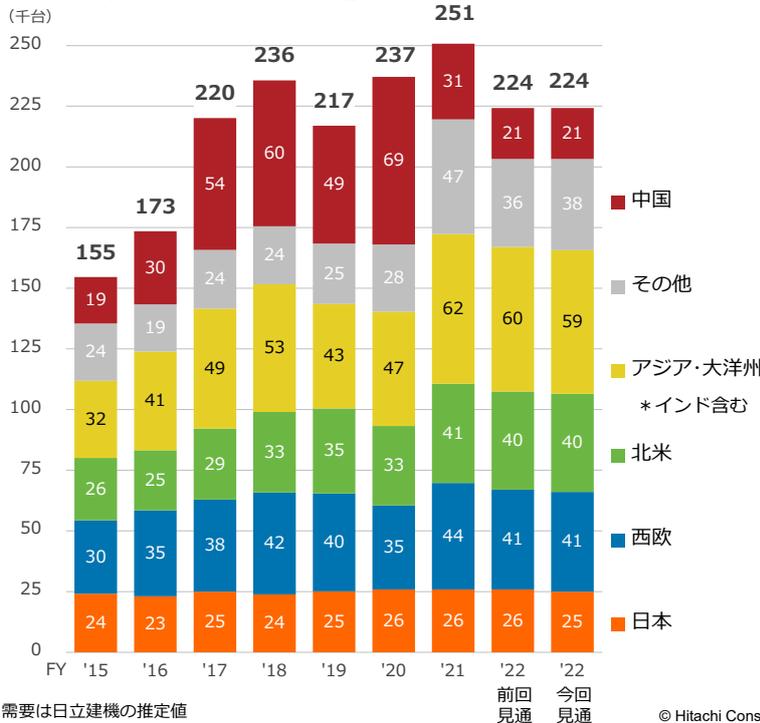
油圧ショベル世界需要推移

HITACHI

Reliable solutions

新興国比率：22年度 52%（前年比△3%）

※新興国：中国、アジア・大洋州、その他



*需要は日立建機の推定値

前見通
今見通

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 3

地域別需要対前年増減

※当社推定 中国国産メーカー含まず
※複写・転用はご遠慮下さい

	'21	'22
合計	+6%	-11%
中国	-55%	-33%
ロシア・CIS	+81%	-29%
東欧		
アフリカ	+70%	-25%
中東	+77%	-0%
中南米	+59%	-19%
その他	+70%	-20%
アジア	+47%	-3%
インド	+9%	-6%
オセアニア	+43%	-5%
アジア・大洋州	+31%	-4%
北米	+25%	-1%
西欧	+27%	-6%
日本	+0%	-4%

3ページ目で油圧ショベルの世界需要見通しについてご説明申し上げます。

22年度の需要は、堅調な需要が継続するものの、サプライチェーンの影響、

資材価格や金利上昇、インフレの加速により、日本、アジア大洋州、アフリカ、中南米などで需要が減少しております。

一方、ロシア・ウクライナ情勢の影響は継続するものの、ロシアとCISの足元の需要は前回想定より増加しております。

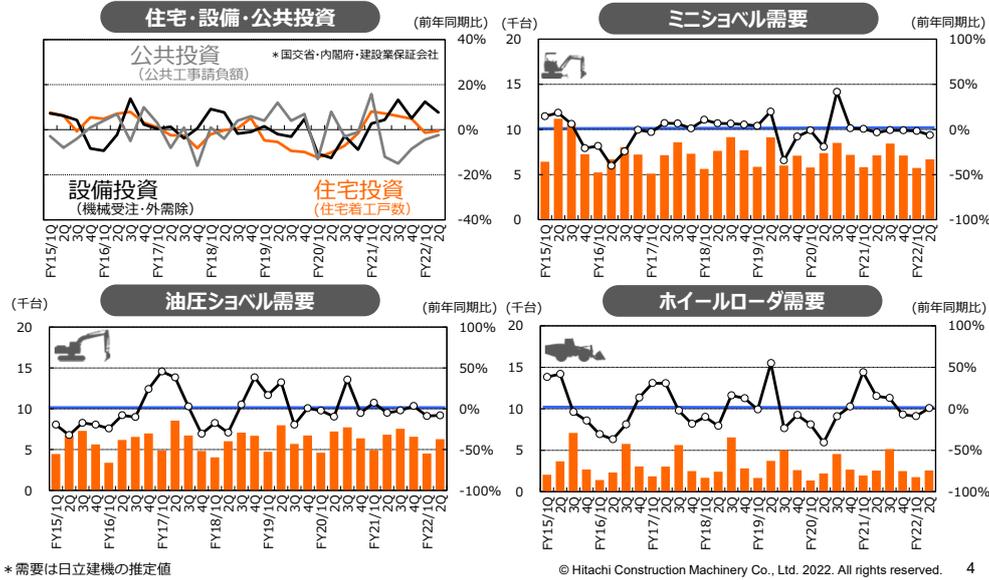
世界全体としましては前回と同じ22万4千台を今回も据え置いております。

全世界合計は前年比で11%減、中国を除く全世界合計では前年比7%減、

中国とロシアCISを除くと6%減となる見通しです。

次に、各地域別に第2四半期の結果についてご説明申し上げます。

- 設備投資は堅調。住宅投資と公共投資は横這い。
- 油圧需要は減少：前年同期比 油圧 Δ 8%、ミニ Δ 6%、WL +1%



次は4ページ目。日本市場です。

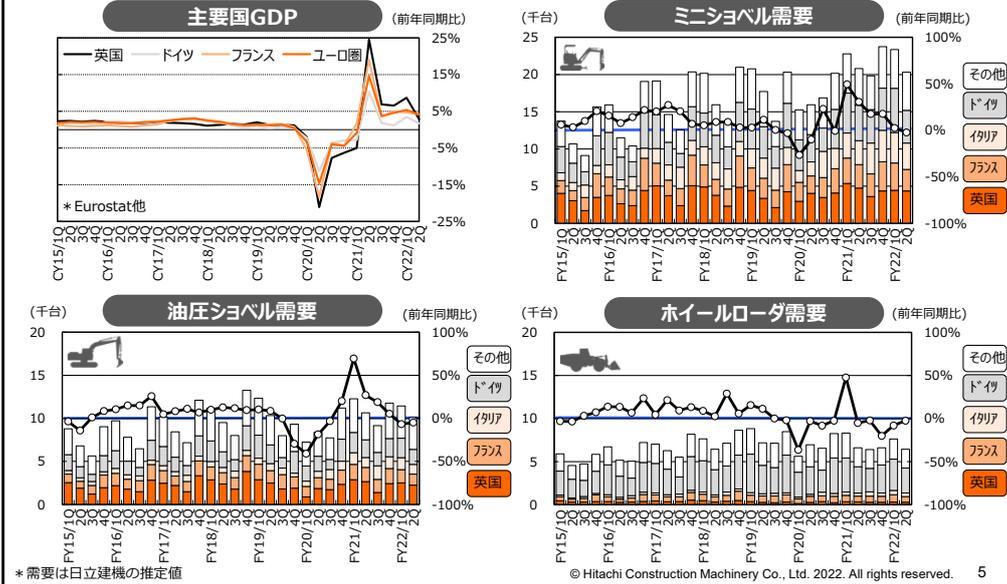
左上、第2四半期の住宅投資と公共投資は横這い、
設備投資は堅調に推移しております。

左下、第2四半期の油圧ショベル需要はサプライチェーンの影響が継続しており、
前年同期比で8%減となりました。

右上、ミニショベルは6%減。

右下、ホイールローダーは1%増となりました。

- 22年2QのGDP成長率は減速。
- 油圧需要は減少：前年同期比 油圧 Δ 5%、ミニ Δ 2%、WL Δ 2%



次は5ページ目。欧州市場です。

左上、GDP成長率は、ユーロ圏全体で伸び率が鈍化しました。

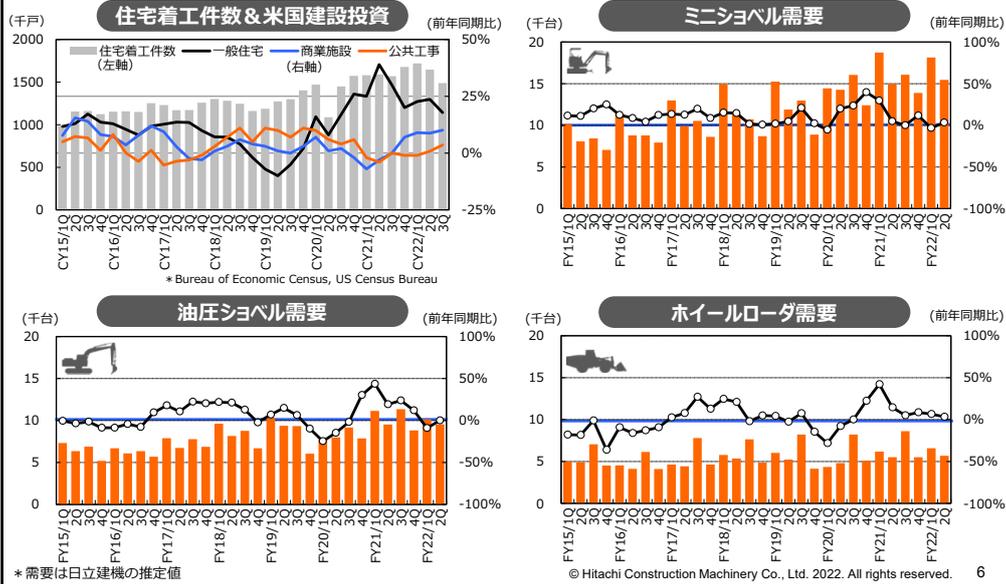
欧州復興基金によるインフラ投資の増加はあるものの、急激な物価上昇やサプライチェーンの影響が継続しており、

左下、第2四半期の油圧ショベル需要は前年同期比で5%減となりました。

右上、ミニショベルは2%減。

右下、ホイールローダーについても2%減となりました。

- 住宅市場は軟調。商業施設と公共工事は増加。
- 油圧需要は堅調：前年同期比 油圧 0%、ミニ +3%、WL +3%



次は6ページ目。北米市場です。

左上、住宅市況は金利上昇もあり住宅着工件数は減少。
その他の建設投資につきましては商業施設も公共工事も増加しております。

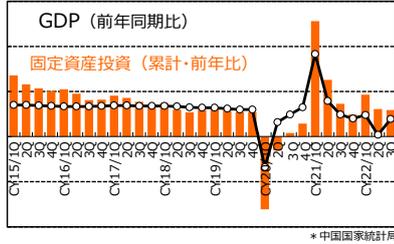
左下、第2四半期の油圧ショベル需要は前年同期比で横ばい。

右上、ミニショベルは前年同期比で3%増。

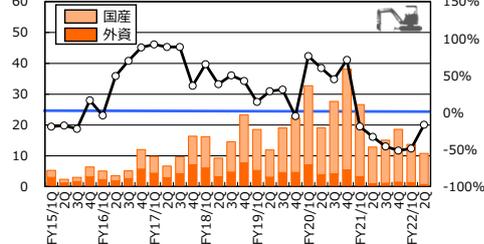
右下、ホイールローダーについても3%増となりました。

- GDP成長率は+3.9%に増加。
- 油圧需要は大幅減少：前年同期比 油圧 △28%、ミニ △16%（国産含む）

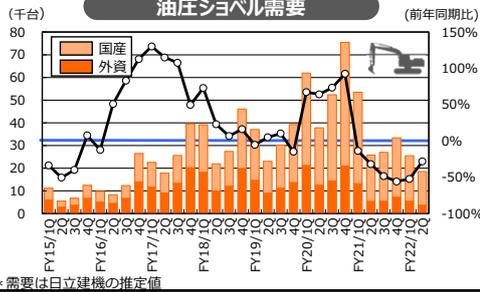
中国GDP・固定資産投資



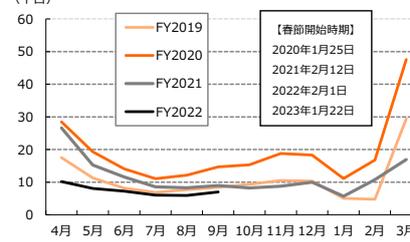
ミニショベル需要



油圧ショベル需要



油圧ショベル需要 (月別比較)



次は7ページ目。中国市場です。

左上、GDPと固定資産投資は、前期のロックダウンによる景気悪化からの反動とインフラ投資加速により、GDP成長率は3.9%増、固定資産投資は5.9%増となりました。

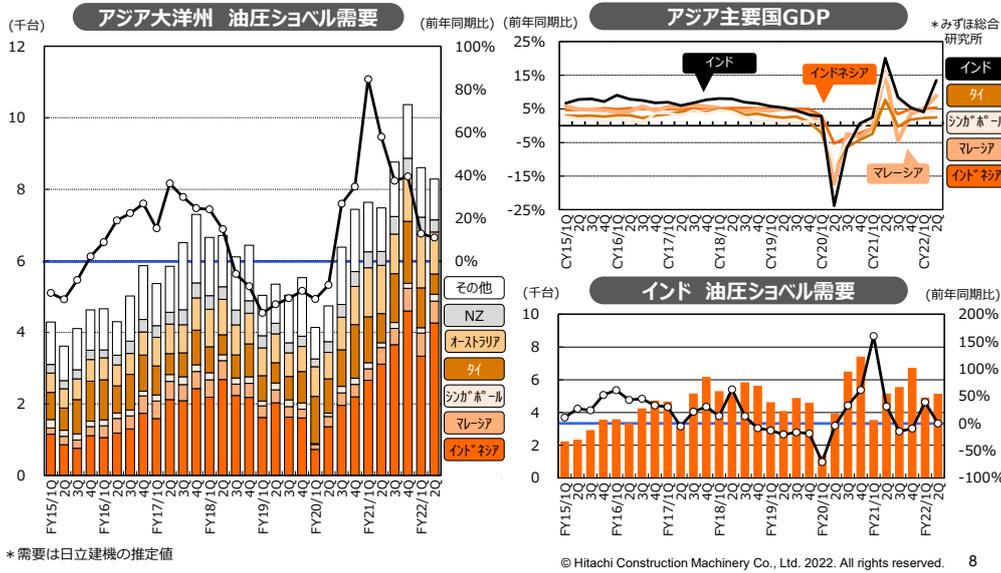
左下、第2四半期の油圧ショベル需要は、国産機を含めた全需要で前年同期比28%減に減少幅が縮小しました。

内訳として国産機需要は27%減、外資は31%減となりました。

右上、ミニショベルは16%減となりました。

油圧ショベルの月別需要推移につきましては資料の右下をご参照下さい。

- アジア大洋州の油圧ショベル需要は前年同期比 +11%
- インドの油圧ショベル需要は前年同期比 0%



次は8ページ目。アジア大洋州、インド市場です。

右上、主要国のGDPは全地域で前年同期比プラスとなりました。

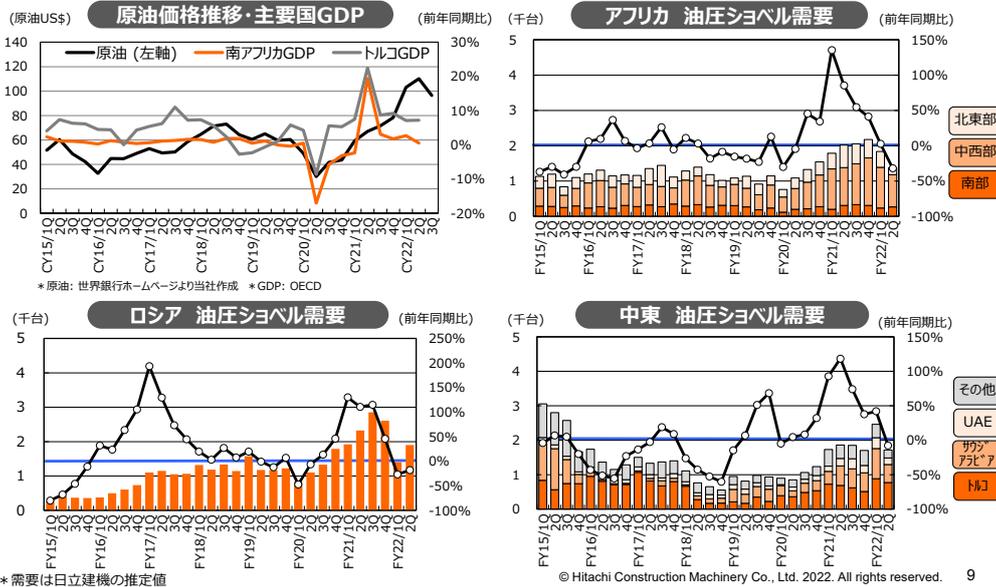
インドは行動制限緩和もあり、順調に回復しております。

マレーシアは個人消費が加速し、高い成長率が継続しております。

左側、アジア大洋州の第2四半期の油圧ショベル需要は、インドネシアを中心として、資源価格が高いレベルを維持していることや好調な林業需要を背景に、前年同期比で11%増となりました。

右下、インドの油圧ショベル需要はモンスーンの影響等により、前年同期比では伸びはありませんでした。

■ ロシアの油圧需要は前年同期比 Δ 18% ■ アフリカの油圧需要は前年同期比 Δ 32%
 ■ 中東の油圧需要は前年同期比 Δ 8%



次は9ページ目。ロシア、中東、アフリカ市場です。

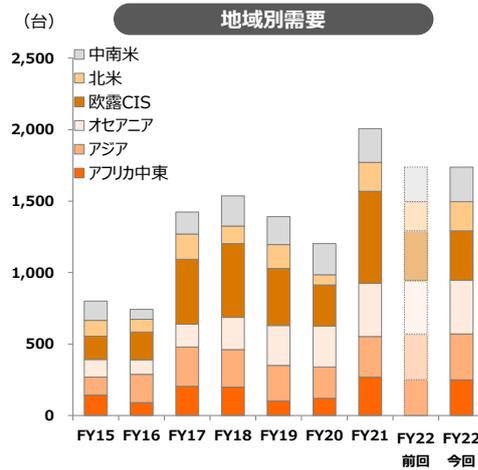
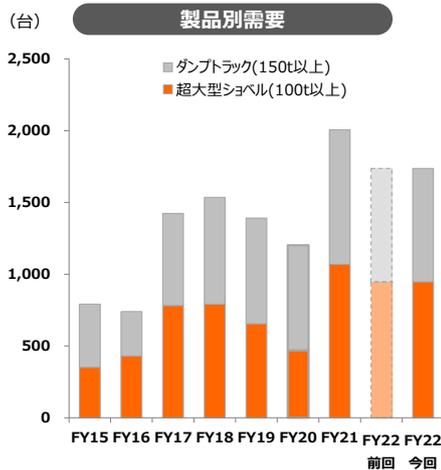
左下、ロシアの第2四半期の油圧ショベル需要は、
 ロシア・ウクライナ情勢の継続的な影響により前年同期比で18%減となりました。

右上、アフリカの油圧ショベル需要は、インフレ影響等により32%減。

右下、中東の油圧ショベル需要は8%減となりました。

- 22年度の需要見通しは前回から変更はない（前年比は△10%～△15%）
- アフリカ、豪州、インドネシア含むアジアの需要は堅調もロシア・CIS地域は需要減少

超大型油圧ショベル(100t以上)、ダンプトラック(150t以上)



*需要は日立建機の推定値

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 10

次は10ページ目。

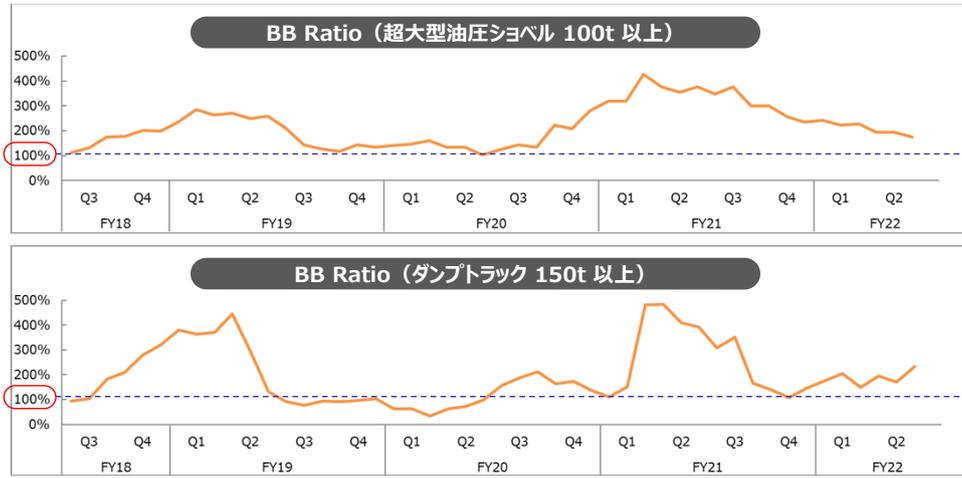
22年度のマイニングの世界需要は、ロシア・CIS地域の需要減少、ロシアを除く他地域、主にオーストラリア、アフリカ、インドネシアを含むアジアの需要は堅調に推移しています。

年間の需要見通しは前回から変更なく、対前年マイナス10%から15%程度と予測します。

補足 : BB Ratio

HITACHI

Reliable solutions



※Book-to-Bill(BB)Ratio = Booking(受注額)/ Billing(出荷額)
当社単独の受注・出荷額の6ヶ月平均

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 11

続いて11ページ目、BBレシオです。

超大型油圧ショベルは、オーストラリア、インドネシアを含むアジア、またその他地域での受注は依然堅調で100%以上を維持しています。

ダンプトラックもオーストラリア、アジア、アフリカ地域での受注が進み、100%以上を維持しています。

トピック(1) : 欧州の先進的な市場に対応し、体制を強化



Reliable solutions

電動化建機、応用・ICT対応製品の市場投入を加速する体制を強化

- KTEG*社がマーケティングから開発、生産、販売、サービスまで対応
- 欧州と日本の開発チームが連携し、課題解決に迅速に貢献

*事業譲渡後、現EAC社は社名を「KTEG GmbH」に変更予定。

KTEG GmbH (日立建機49.9%出資)

欧州市場モデルを開発、迅速に投入



連携

日立建機・日立建機ティアラ

他地域を見据えたグローバルモデルを開発



都市土木向けバッテリー駆動式ミニ・小型ショベルのラインアップを拡充

- エンジン駆動式と同等の作業量(動力性能)を確保
- バッテリー電源と商用電源を併用することで、長時間稼働を実現

4機種を bauma2022 に出展



2tクラス



5tクラス



8tクラス



13tクラス

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 12

続きまして、12ページからはトピックのご説明です。

日立建機は、欧州の先進的な市場に対応し、体制を強化しています。これまで電動化建機、応用・ICT対応製品の開発に特化していたEAC社は、マーケティングから開発、生産、販売、サービスまで一気通貫で担うことになりました。社名もEAC社から「KTEG社」に変更する予定です。

体制を強化したKTEG社は、欧州の先進的な市場に対して、迅速に製品を開発・市場投入します。

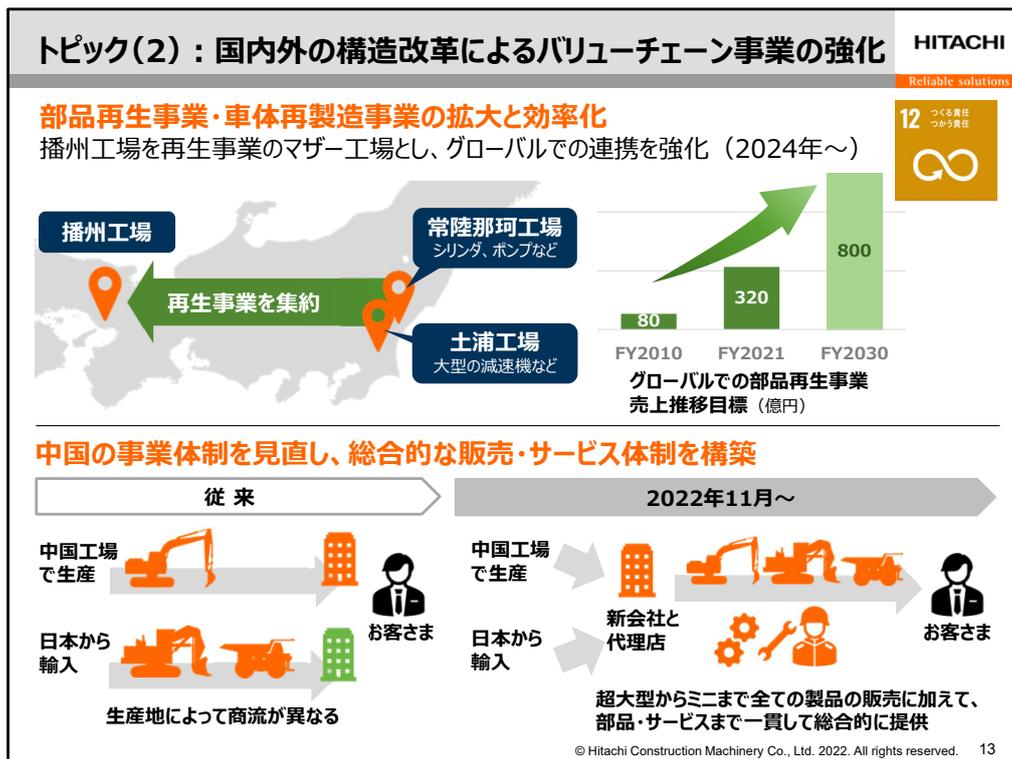
さらに、日立建機と日立建機ティアラは、他地域への展開を見据えて品質・コスト競争力のあるグローバルモデルの開発・量産をめざします。

これらの体制で、日立建機グループは、電動化ニーズの強い都市土木向けバッテリー駆動式ミニ・小型ショベルのラインアップを拡充しています。

エンジン駆動式と同等の作業量を確保できる点と、バッテリー電源と商用電源を併用できる点が大きな特長です。

ドイツ・ミュンヘンで10月24日から開催されている国際建設機械見本市「bauma 2022」に出展しています。

引き続き、欧州と日本で連携し、社会・環境・お客さまの課題解決に貢献して参ります。



次は13ページ目。国内外の構造改革によるバリューチェーン事業の強化についてご説明します。

これまで、茨城県の土浦工場と常陸那珂工場のそれぞれで行っていた再生事業を、2024年を目途に兵庫県の播州工場に集約します。これにより、部品再生事業、および車体再製造事業をさらに拡大し、効率化を図ります。

右の棒グラフの通り、グローバルでの部品再生事業は2030年度までに800億円の売上の伸長をめざしています。播州工場を再生事業のマザー工場することで、これまで以上にグローバルでの連携を強化していきます。

また、中国の事業体制の見直しを行い、総合的な販売・サービス体制を構築します。従来は、中国の工場で生産するコンストラクション製品と、日本から輸入する、主にマイニング製品は、それぞれ商流が異なっておりました。

11月からは、新たに設立した「日立建機販売（中国）」と代理店が、コンパクト・コンストラクション・マイニングと全ての製品を取り扱い、部品・サービスまで一貫してお客さまにご提供します。

トピック(3) : 日立建機タイランドでConSiteセンターを開所

HITACHI

Reliable solutions

ConSiteセンターの設置によりタイの建機市場でバリューチェーン事業を強化

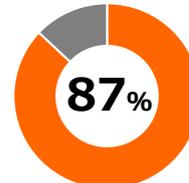
- 建設機械の稼働データに基づいてお客さまからの問い合わせに24時間365日体制で対応
- 油圧ショベル最大47tクラスの修理・整備に対応、50万点ものスペアパーツを保管



高いConSite契約率をベースに部品・サービス事業を拡大

- 東南アジア市場はインフラ整備など工事数が増加

東南アジアにおける
ConSite 契約率



(2022年3月末現在)

機械の安定稼働のため迅速な修理・メンテナンスが重要

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 14

次は14ページ目。

日立建機タイランドでは東南アジアでのバリューチェーン事業強化を目的に、8月、サービス拠点ConSiteセンターを開所しました。

ConSiteセンターでは、遠隔監視で建設機械を見守るサービスソリューション「ConSiteアラーム」や、建設機械の稼働データに基づいて、お客さまからの問い合わせに24時間365日体制で対応しています。

施設内には最大47 t の油圧ショベルの修理・整備に対応できる工場棟や、50万点のスペアパーツを保管できる倉庫も併設されています。

近年、東南アジアは経済成長に伴いインフラ整備などの土木工事数が増加傾向にあり、建設機械の安定稼働のため、アフターサービスの充実が求められています。

日立建機グループは、契約率が87%と高いConSiteと、サービス拠点ConSiteセンターを軸に、部品・サービス事業を拡大いたします。

2. 2023年3月期第2四半期 決算説明

執行役常務CFO
塩嶋 慶一郎

続きまして、CFOの塩嶋でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私から、22年度第2四半期の決算、並びに22年度通年業績予想の概要をご説明 致します。

連結決算の概要

HITACHI

Reliable solutions

当第2四半期は、米州を中心に全世界での堅調な需要に支えられ、売上収益は前年同期比22%増収、調整後営業利益は37%増益。親会社株主に帰属する四半期利益は前年度の米州事業再編に伴う利益を除くと実質113%増益。

(単位：億円)

	22年度 第2Q累計	21年度 第2Q累計	前年同期比 増減率
売上収益	5,789	4,737	22%
調整後営業利益 *1	(9.0%) 521	(8.0%) 381	37%
営業利益	(9.2%) 533	(8.1%) 384	39%
税引前四半期利益	(9.5%) 552	(9.0%) 426	30%
親会社株主に帰属する 四半期利益	(6.2%) 357	(6.7%) 319	12%
EBIT *2	(9.9%) 574	(9.3%) 439	31%
為替			
アメリカドル	134.1	109.8	24.3
ユーロ	138.7	131.0	7.6
中国元	19.9	17.0	2.9
オーストラリアドル	93.7	82.6	11.1
1株当たり配当金 *3	50円	45円	5円

*1 [調整後営業利益]は、「売上収益－売上原価－販売費及び一般管理費」により計算している利益指標です。

*2 [EBIT]は、税引前当期利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。(EBIT=Earnings before interests and taxes)

*3 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%程度、もしくはそれ以上をめざします。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 16

先ず、P.16『連結決算の概要』をご覧ください。

22年度第2四半期累計期間の売上収益は、為替円安影響の持ち上げ効果もあり、前年比22%増の5,789億円、調整後営業利益は、同37%増の521億円で、利益率9.0%、営業利益は533億円で利益率9.2%でありました。

親会社株主帰属当期利益は、前年比12%増の357億円でありました。前年度には米州事業再編に伴う特益169億相当が含まれることから、これから税金費用を差し引いた、実質の当期利益をベースにすると前年比113%の増益となりました。

尚、中間配当金につきましては、本日の弊社取締役会で1株当たり50円と決議しました。

また、22年度第2四半期累計期間の為替レートは前年比で米ドルが24.3円の円安、ユーロが7.6円、元が2.9円、オーストラリアドルも11.1円と、いずれも円安でした。

連結地域別売上収益

HITACHI

Reliable solutions

中国は前年同期比減収なるも、海外他地域は為替円安効果含みで大幅増収となり、連結合計では1,052億円の増収。

(単位：億円)

	22年度 第2Q累計		21年度 第2Q累計		前年同期比	
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本	995	17%	969	20%	26	3%
アジア	520	9%	357	8%	163	46%
インド	306	5%	234	5%	72	31%
オセアニア	1,138	20%	808	17%	330	41%
欧州	747	13%	584	12%	163	28%
北米	1,151	20%	932	20%	218	23%
中南米	166	3%	102	2%	64	63%
ロシアCIS	205	4%	165	3%	40	25%
中東	127	2%	102	2%	25	25%
アフリカ	246	4%	193	4%	53	28%
中国	187	3%	291	6%	△104	△36%
合計	5,789	100%	4,737	100%	1,052	22%
海外売上収益比率	83%		80%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 17

次に、P.17『連結地域別売上収益』をご覧ください。

売上収益は前年比1,052億円の増収となりました。
尚、その内数として、為替円安の影響を648億の増収と分析しております。
地域別では、中国を除き、全地域で前年比増収となりました。

中国では、ゼロ・コロナ施策継続、ロックダウンの影響による需要減退で、前年比36%もの大幅減収となりました。

一方、北米初め、アジア、オセアニア、欧州においては、引き続き堅調な需要を取り込み、前年比で大幅な増収となりました。

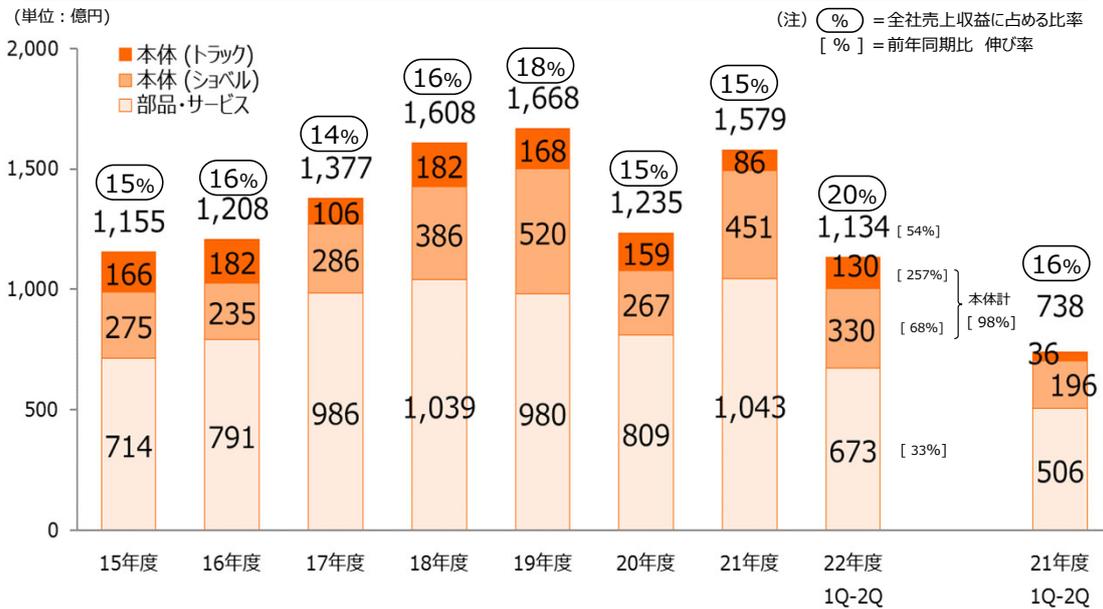
結果、海外売上収益比率は、前年比3ポイント増の83%となりました。

マイニング売上収益推移

HITACHI

Reliable solutions

本体では旺盛な需要を取り込み、前年同期比大幅増加。部品・サービスも大きく伸ばし、前年同期比54%増の1,134億円。



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 18

続いて P.18『マイニング売上収益推移』をご覧ください。

当四半期累計期間のマイニング売上収益は、右側から2本目の棒グラフに示した通りに1,134億円と、為替円安影響もあり、前年比54%の増収でした。

本体売上においては、トラック本体が主にオセアニア地域の貢献で前年比257%の増収に、ショベル本体も同地域、並びに米州の貢献で同68%の増収となりました。

また、部品サービスも米州の貢献が大きく、同33%の増収となりました。

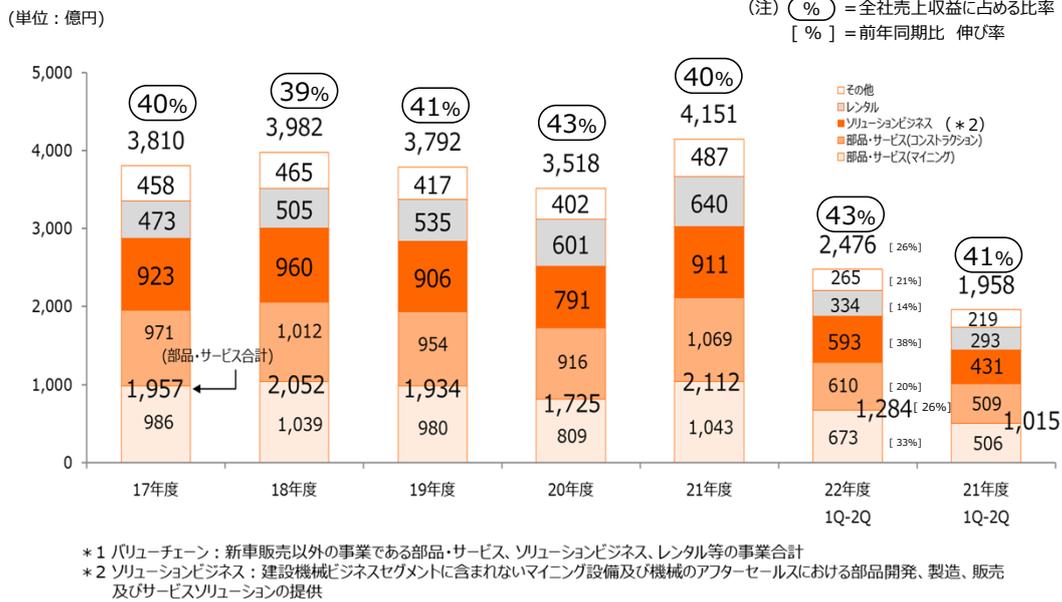
尚、連結売上収益に占めるマイニングの比率は20%と、前年比で4ポイント増加しました。

バリューチェーン*1 売上収益推移

HITACHI

Reliable solutions

バリューチェーンは全部門で物量が増加し、前年同期比26%増の2,476億円。



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 19

続いて、P.19は、『バリューチェーン』の状況です。

同じく右から2本目の棒グラフをご覧ください。

当四半期累計期間のバリューチェーン売上収益は、ご覧の通りに、前年比26%増の2,476億円でした。

為替円安影響を13%相当の増収要因と分析しており、現地通貨ベースでは前年比で13%の増収と捉えております。

部品サービス収益が前年比26%の増収となった他、全ての部門で前年実績を上回りました。

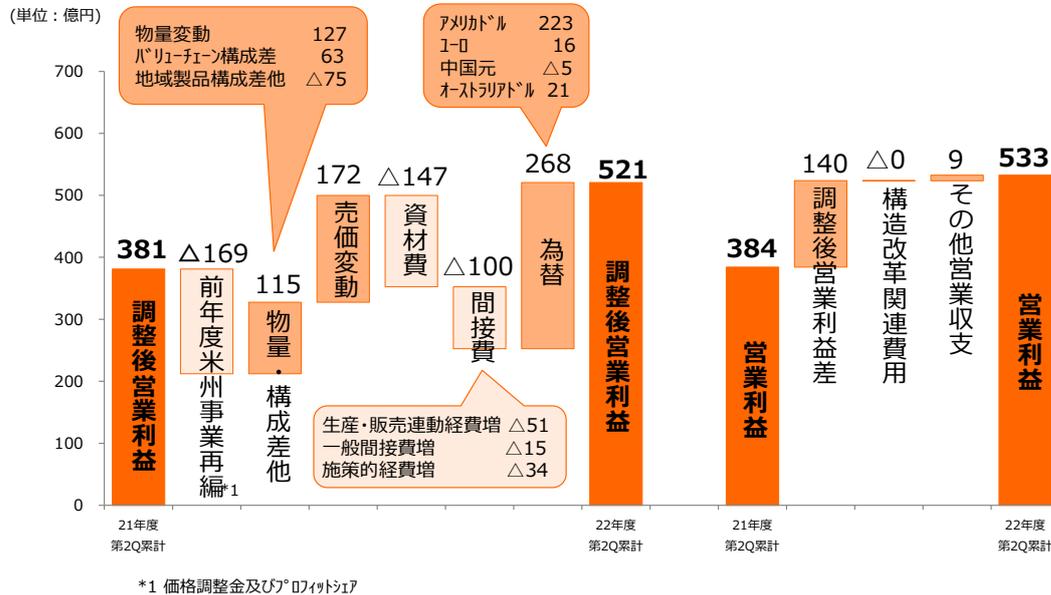
また、連結売上収益に占めるバリューチェーンの比率は43%と、前年比で2ポイント増加しました。

連結損益変動要因

HITACHI

Reliable solutions

調整後営業利益は、前年同期での米州事業再編利益がなくなるも、物量増、売価アップ、為替影響などにより、前年同期比で140億円の増益。



続いてP.20は当四半期累計期間の『連結損益変動要因』です。

調整後営業利益が、前年比140億円の増益となった要因となります。

左端から前年度に計上した米州事業再編利益169億がなくなったものの、物量・構成差として115億の増益要因と分析しております。

内訳として、物量増で127億、バリューチェーン売上の増加による構成差で63億の増益となった一方、海上運賃等の運搬費増74億を含む地域・製品構成差他75億の減益要因がありました。

一方で売価変動172億の改善により、資材費増加147億を吸収しました。間接費は、生産・販売連動経費を主体に100億増加しましたが、為替円安影響268億で吸収し、調整後営業利益は、前年比140億増益の521億円となりました。

ページ右側、営業利益は、調整後営業利益の増益140億に加え、その他営業収支にオーストラリアの不動産処分益13億を計上した結果、前年比149億の増益となる、533億円となりました。

要約連結損益計算書

HITACHI

Reliable solutions

親会社株主に帰属する四半期利益は、前年同期比12%増の357億円。親会社株主に帰属する四半期利益は前年度の米州事業再編に伴う利益を除くと実質113%増益。

(単位：億円)

	22年度 第2Q累計		21年度 第2Q累計		前年同期比	
					金額	増減率
売上収益		5,789		4,737	1,052	22%
売上原価	(71.5%)	4,141	(73.2%)	3,469	672	19%
販売費・管理費	(19.5%)	1,127	(18.7%)	887	240	27%
調整後営業利益 *1	(9.0%)	521	(8.0%)	381	140	37%
その他の収益及び費用		12		3	9	299%
営業利益	(9.2%)	533	(8.1%)	384	149	39%
金融収益及び費用		5		△5	10	-
持分法投資損益		15		47	△32	△68%
税引前四半期利益	(9.5%)	552	(9.0%)	426	126	30%
法人所得税費用		170		86	84	98%
四半期利益	(6.6%)	382	(7.2%)	340	42	12%
親会社株主に帰属する 四半期利益	(6.2%)	357	(6.7%)	319	38	12%

*1 [調整後営業利益]は、「売上収益－売上原価－販売費及び一般管理費」により計算している利益指標です。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 21

続いて、P.21『要約連結損益計算書』をご覧ください。

ここまで、売上収益から営業利益までご説明して参りましたので、このページでは、営業外損益以下を簡単に説明します。

金融収益・及び費用は、主として為替差益計上により、前年比10億円の改善となりました。

一方、持分法損益では、主に米州事業利益減により同32億円の減益でした。

親会社株主に帰属する当期利益は、同38億増益の357億円となりました。前年度には米州事業再編に伴う特益169億 相当が含まれることから、これから税金費用を差し引いた、実質の当期利益をベースにすると前年比113%の増益となりました。

要約連結 四半期別売上収益・営業利益（率）

HITACHI

Reliable solutions
(単位:億円)

	2019年				2020年				2021年				2022年	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q+1	3Q	4Q	1Q	2Q
売上収益	2,347	2,459	2,066	2,442	1,702	1,907	1,978	2,546	2,281	2,456	2,467	3,046	2,675	3,114
調整後営業利益	229	221	138	179	29	80	74	144	118	263	232	322	206	315
営業利益	237	196	141	155	25	60	67	130	119	265	233	449	218	315



四半期別為替レート	2019年				2020年				2021年				2022年	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
アメリカドル	109.9	107.4	108.8	108.9	107.6	106.2	104.5	105.9	109.5	110.1	113.7	116.2	129.6	138.4
ユーロ	123.5	119.3	120.3	120.1	118.5	124.1	124.5	127.7	132.0	129.8	130.1	130.4	138.1	139.3
中国元	16.1	15.3	15.5	15.6	15.2	15.4	15.8	16.4	17.0	17.0	17.8	18.3	19.6	20.2
オーストラリアドル	76.9	73.6	74.3	71.8	70.7	75.9	76.3	81.8	84.3	80.9	82.9	84.0	92.6	94.5

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 22

続いて、P.22四半期別の業績推移です。

一番右側の22年度第2四半期をご覧下さい。

当四半期の売上収益は3,114億円となり、前年同期2,456億に対して658億の増収となりました。

また、調整後営業利益率は、折れ線グラフに示した通りに10.1%となりました。

注記2. で示しました通り、前年同期での米州価格調整111億の影響を除いた実質的な利益率 6.5%と比較して、大幅な改善となりました。

要約連結財政状態計算書

HITACHI

Reliable solutions

当四半期末は、棚卸資産の増に加え為替円安影響により総資産が前年度末比で1,283億円の増加。

(単位：億円)									
	(A)	(B)	(C)	(A)-(B)		(D)	(E)	(F)	(D)-(E)
	22年2Q	21年度末	21年2Q	増減		22年2Q	21年度末	21年2Q	増減
現金及び現金同等物	1,033	943	877	90	営業債務及びその他債務合計	2,560	2,522	2,064	38
営業債権	2,644	2,663	1,991	△19	社債及び借入金	4,174	3,531	3,364	643
棚卸資産	4,414	3,683	3,094	732	負債の部合計	8,174	7,416	6,586	757
流動資産計	8,528	7,644	6,458	884	(親会社所有者帰属持分比率)	(43.1%)	(43.4%)	(43.3%)	(△0.3%)
非流動資産合計	6,852	6,452	6,084	400	資本の部合計	7,206	6,679	5,956	526
資産の部合計	15,379	14,096	12,541	1,283	負債・資本の部合計	15,379	14,096	12,541	1,283
非流動を含めた営業債権	3,078	3,090	2,402	△12					
棚卸資産 内訳						(27.1%)	(25.1%)	(26.8%)	(2.1%)
本体	1,338	1,089	802	249	有利子負債計	4,174	3,531	3,364	643
部品	1,585	1,326	1,013	259	現金及び現金同等物	1,033	943	877	90
その他	1,491	1,268	1,280	224	ネット有利子	(20.4%)	(18.4%)	(19.8%)	(2.1%)
棚卸資産計	4,414	3,683	3,094	732	負債	3,141	2,589	2,486	552
手持日数 (分母は売上収益)				(単位：日)	ネットD/ELシオ	0.47	0.42	0.46	0.05
営業債権 (非流動含む)	99	110	95	△11					
棚卸資産	143	131	122	12					
営業債務	48	51	45	△4					
正味運転資金	190	186	168	4					

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 23

続いて、P.23は22年9月末の『連結貸借対照表』です。

前年度末22年3月末比較では、営業債権を19億縮減しました。
 棚卸資産は、売上物量増対応、米州在庫拡充に加え、サプライチェーン改善により日本から出荷した完成車在庫増にて732億の増加となりましたが、為替円安影響による増加相当を293億と分析しております。
 加えて、非流動資産を建物、賃貸用資産主体に400億増加したことから、総資産は15,379億円と、前年度末より1,283億増加となりました。

手持日数では、営業債権を99日と前年度末より11日短縮したものの、棚卸資産は12日悪化の143日となりました。
 この結果、正味運転資金手持日数は前年度末よりも4日悪化した190日となりました。

右側の有利子負債は、前年度末より643億増加しましたが、一方で現預金を積み増したこともあり、ネット有利子負債は552億増加の3,141億円となりました。

資本合計は7,206億円で、親会社所有者帰属持分比率は43.1%、ネットD/ELシオは0.47でした。

連結キャッシュ・フロー

HITACHI

Reliable solutions

営業キャッシュ・フローは75億円ポジティブとなるも、投資キャッシュ・フローは219億円ネガティブとなり、フリーキャッシュ・フローは144億円のネガティブ。

(単位：億円)

	22年度 第2Q累計		21年度 第2Q累計		前年同期比 増減額	
四半期利益		382		340		42
減価償却費	689	306	612	272	77	35
売掛金及び受取手形の増減		305		137		169
棚卸資産の増減	△ 158	△ 432	51	△ 122	△ 209	△ 310
買掛金及び支払手形の増減		△ 31		36		△ 68
その他		△ 456		△ 382		△ 74
営業活動に関するキャッシュ・フロー		75		281		△ 206
営業キャッシュ・フロー・マージン率		1.3%		5.9%		△ 4.6%
投資活動に関するキャッシュ・フロー		△ 219		△ 159		△ 60
フリー・キャッシュ・フロー		△ 144		122		△ 266
財務活動に関するキャッシュ・フロー		147		△ 56		203

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 24

続いて、P.24は『連結キャッシュフロー』です。

当四半期累計期間の営業キャッシュフローは、75億円のポジティブに留まりました。棚卸資産増により運転資金が膨らみ、前年同期比では206億円減少となりました。

投資キャッシュフローにおいても、前年同期比60億増加の219億円の支出となり、フリーキャッシュフローは、144億円のネガティブとなりました。

要約連結損益計算書(予想)

HITACHI

Reliable solutions

22年度連結損益計算書は、サプライチェーンリスクやロシアリスクなどを織り込むも、為替円安影響等により、売上収益は前年比13%の増収を見込む。

注. < >内は22年7月公表値

(単位: 億円)

	22年度 予想		21年度 実績	前年比	
				金額	増減率
売上収益	<10,400>	11,600	10,250	1,350	13%
調整後営業利益	<940>	1,100	935	165	18%
営業利益	<900>	1,060	1,066	△6	△1%
税引前当期利益	<900>	1,060	1,109	△49	△4%
親会社株主に帰属する当期利益	<570>	670	758	△88	△12%
EBIT	<950>	1,104	1,140	△36	
通貨	1Q-2Q 実績	3Q-4Q 予想	年度 予想	21年度 実績	前年比
アメリカドル	134.1	130.0	131.8	112.6	19.2
ユーロ	138.7	140.0	139.4	130.6	8.8
中国元	19.9	19.5	19.6	17.5	2.2
オーストラリアドル	93.7	90.0	91.9	83.0	8.8
1株当たり配当金*1	未定			110円	-

為替感応度は
参考資料1を
ご参照ください

*1 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%程度、もしくはそれ以上をめざします。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 25

続いて、今回の22年度業績予想をご説明します。
スライドP.25『要約連結損益計算書(予想)』をご覧ください。

これまでご説明して参りました上半期の実績、需要環境を鑑み、今年度業績予想については前回7月に続いて公表値を上方修正します。

具体的には本スライドの通り、売上収益11,600億円、調整後営業利益1,100億円、親会社株主に帰属する当期利益670億円とします。調整後営業利益率は9.5%を見込みます。

売上物量増加に加えて、ウクライナ情勢の長期化による需要減退、資材費の上昇、並びにサプライチェーン等のリスクを引き続き織込むも、7月時見通しより縮減しました。一方、物流コスト増加については、追加リスクを織込みました。

尚、前年度の米州事業再編に絡み、先程まで触れた価格調整に加え、年度末には合併会社株式の譲渡益計上が含まれたことから、営業利益以下は前年比で減益となりますが、これらの影響を除くと、親会社株主に帰属する当期利益は実質的に前年比34%の増益を見込みます。

尚、第3四半期以降の予想為替レートは前回7月から変更しておりません。

P.30に、参考資料1.として、第3四半期以降の売上収益と調整後営業利益に影響する為替感応度も掲載しましたので、ご参考願います

要約地域別売上収益(予想)

HITACHI

Reliable solutions

今年度連結売上収益は、ロシアや中国で大きく減収するも、他地域での堅調な需要推移により前年比13%の増収を見込む。

(単位：億円)

	22年度 予想		21年度 実績		前年比	
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本	2,178	19%	2,169	21%	9	0%
アジア	1,141	10%	864	8%	276	32%
インド	619	5%	572	6%	47	8%
オセアニア	2,094	18%	1,677	16%	417	25%
欧州	1,403	12%	1,242	12%	161	13%
北米	2,438	21%	1,964	19%	474	24%
中南米	332	3%	227	2%	105	46%
ロシアCIS	298	3%	386	4%	△88	△23%
中東	223	2%	192	2%	31	16%
アフリカ	528	5%	435	4%	93	21%
中国	346	3%	521	5%	△175	△34%
合計	11,600	100%	10,250	100%	1,350	13%
海外売上収益比率	81%		79%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 26

続いて、P.26 は『地域別売上収益の予想』です。

当年度売上収益については、前年比1,350億円増収の11,600億円に見通しを修正します。尚、為替円安影響を1,119億円の増収効果と分析します。

中国、ロシア・CISで大きく減収を見込む一方、北米、オセアニア、アジアでは為替影響も大きく、増収を見込みます。

尚、海外売上高比率は、前年比2ポイント増の81%を見込みます。

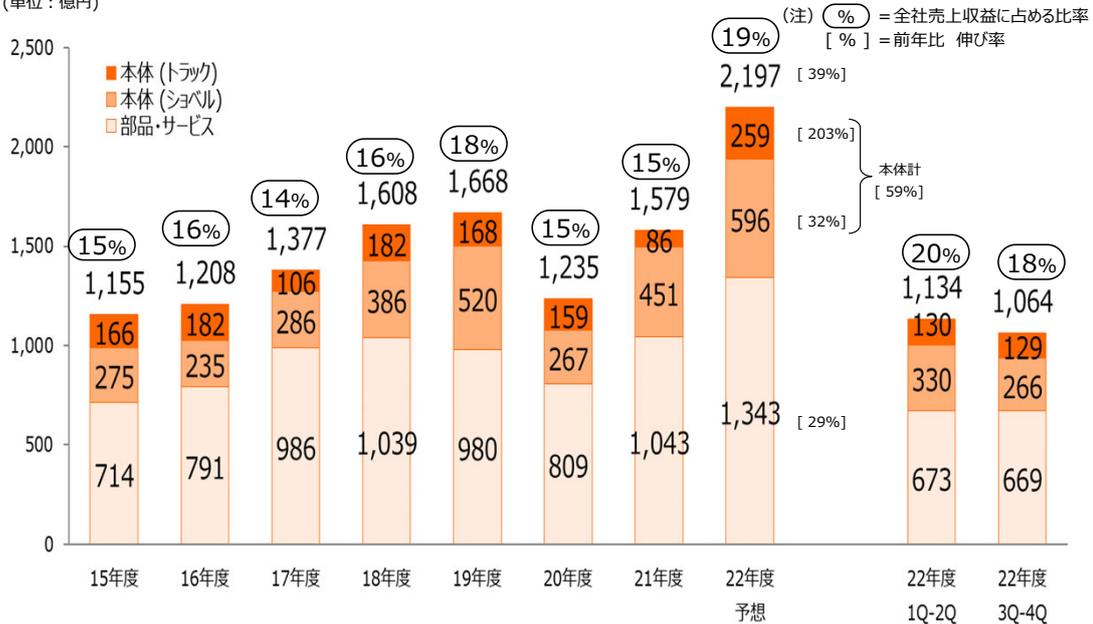
マイニング売上収益推移(予想)

HITACHI

Reliable solutions

今年度マイニング売上収益は、前年比39%増収の2,197億円を見込む。

(単位：億円)



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 27

次に、P.27は『マイニング売上収益予想』です。

本年度のマイニング売上は、前年比39%増収の2,197億円を見込みます。

機械本体はトラックとショベル合計で、前年比59%の増収を見込む他、部品サービスも同29%増収の予想です。

売上構成比も、同4ポイント増加の19%を見込みます。

尚、P.31に参考資料2として地域別の『マイニング売上収益内訳』を掲載していますので、ご参考願います。

プレゼンスの高いアジア・大洋州での増収に加え、米州においても前年比で209億円の増収を見込みます。

バリューチェーン*1 売上収益推移(予想)

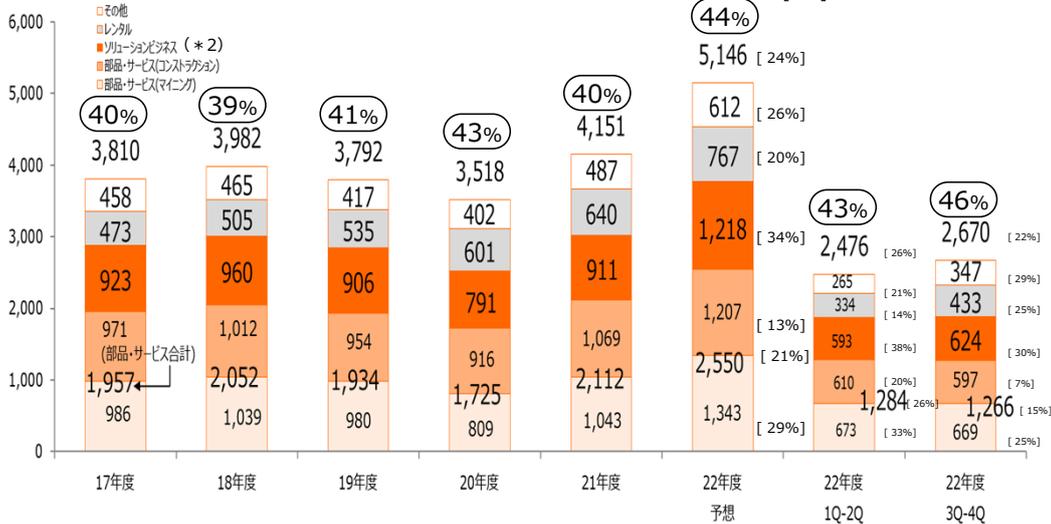
HITACHI

Reliable solutions

バリューチェーンは前年比で24%増収の5,146億円を見込む。

(単位：億円)

(注) (○) = 全社売上収益に占める比率
[%] = 前年比 伸び率



*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、ソリューションビジネス、レンタル等の事業合計

*2 ソリューションビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 28

続いて、P.28『バリューチェーン売上収益推移(予想)』をご覧ください。

当年度のバリューチェーン売上収益予想も、前年比24%増収の5,146億円と、前回7月公表値を上方修正致します。

今回、バリューチェーン合計額としては初めて、5,000億円台を見込みます。

個々には部品サービスを、コンストラクション、マイニング向け合計で前年比21%増収の2,550億円、ソリューションビジネスにおいても同34%増の1,218億を夫々見込みます。それ以外の全部門でも対前年増を織込みます。

尚、売上構成比も、前年比4ポイント増加の44%を見込みます。

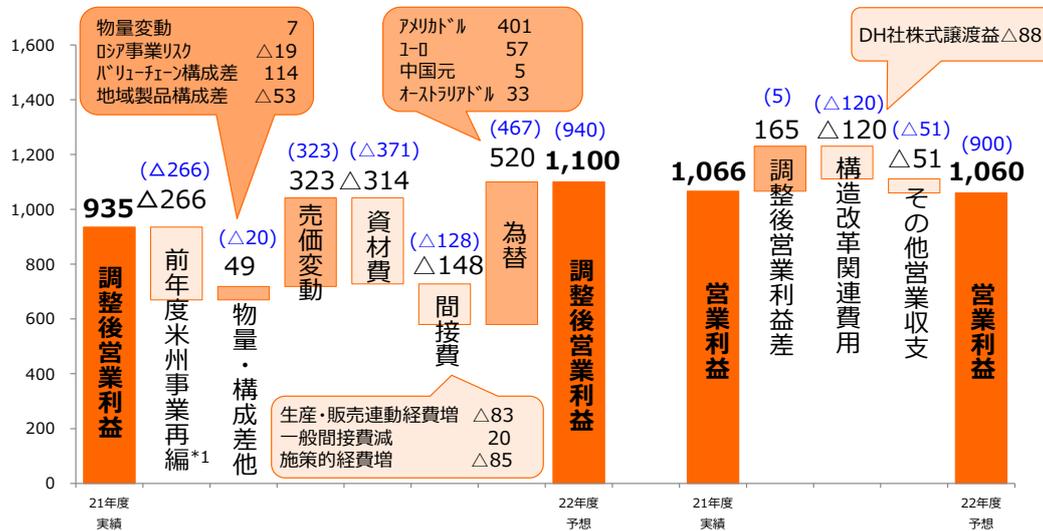
連結損益変動要因(予想)

HITACHI

Reliable solutions

調整後営業利益は、前年度での米州事業再編利益が無くなることに加え、調達リスクやロシア事業リスクは依然あるも、売価アップや為替影響などにより前年比165億円の増益を見込む。

注.()内は22年7月公表ベース
(単位: 億円)



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 29

ご説明の最後となりますP.29『連結損益変動要因(予想)』をご覧ください。
当年度調整後営業利益が前年比で165億の増益を見込む1,100億円となる要因をご説明します。

左端から前年度に計上した米州事業再編利益266億がなくなるものの、物量・構成差として49億の増益を織込みます。

内訳として、前回まで慎重に織込んだ需要減、サプライチェーン等のリスクを軽減し、物量変動で7億、バリューチェーン構成差で114億の増益を織込みます。

一方、地域・製品構成差では、運搬費増の追加織込み他で、53億の減益を見込みます。

また、売価改善323億の改善により、資材費314億増加の吸収を織込みます。

間接費で148億増を織込むも、為替円安影響による増益効果520億見込むことで、調整後営業利益は前年比165億円の増益を見込みます。

ページ右側営業利益については、前年度に計上した株式売却益等の特益が当年度には見込めないことから、前年比6億の減益となる1,060億円を予想します。

次ページ以降に参考資料を4枚付けておりますので、ご参照下さい。

以上、駆け足ではございましたが、ご説明を終わります。有難うございました。

参考資料 1 : 為替レート及び為替感応度

HITACHI

Reliable solutions

22年度予想為替レートは、前回から変更せず。

為替レート及び為替感応度

(単位:億円)

通貨	為替レート				感応度(3Q-4Q)		
	22年度			21年度 実績	基準	売上収益	調整後 営業利益
	1Q-2Q 実績	3Q-4Q 予想	年度 予想				
アメリカドル	134.1	130.0	131.8	112.6	1円円安になった場合	15	11
ユーロ	138.7	140.0	139.4	130.6	1円円安になった場合	4	4
中国元	19.9	19.5	19.6	17.5	0.1円円安になった場合	1	1
オーストラリアドル	93.7	90.0	91.9	83.0	1円円安になった場合	13	2

参考資料 2 : マイニング売上収益内訳

HITACHI

Reliable solutions

(単位：億円)

		22年度見通			21年度実績			差額		
		1-2Q累	3-4Q累	年度	1-2Q累	3-4Q累	年度	1-2Q累	3-4Q累	年度
米州	ショベル	134	154	288	64	31	94	70	123	194
	トラック	21	21	42	14	13	26	7	8	15
	計	155	175	330	77	43	120	77	132	209
欧阿中東	ショベル	177	142	319	117	157	275	60	△ 15	44
	トラック	116	116	231	79	99	178	37	17	53
	計	293	258	550	196	256	453	96	1	98
アジア・大洋州	ショベル	471	428	899	341	415	756	130	13	143
	トラック	205	197	402	113	117	231	92	79	171
	計	677	625	1,301	454	533	987	223	92	315
中国	ショベル	2	5	7	3	3	6	△ 1	2	1
	トラック	1	0	1	0	0	1	0	0	0
	計	3	5	8	3	3	7	△ 0	2	1
日本	ショベル	6	2	8	7	6	13	△ 1	△ 4	△ 5
	トラック	0	0	0	0	0	0	0	△ 0	0
	計	6	2	8	7	6	13	△ 1	△ 4	△ 5
合計	ショベル	791	730	1,521	532	612	1,144	259	118	377
	トラック	343	334	676	206	229	436	136	104	241
	計	1,134	1,064	2,197	738	841	1,579	395	223	618

参考資料 3 : セグメント情報

HITACHI

Reliable solutions

下記ソリューションビジネスの調整後営業利益は、P P A (資産再評価)償却費として22年度第2四半期累計実績には6億円、22年度予想にも12億円をそれぞれ含む。

(単位: 億円)

22年度 第2Q累計	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス		
売上収益	5,196	626	△ 32	5,789
調整後営業利益	9.1% 475	7.4% 46	-	9.0% 521

(単位: 億円)

22年度 予想	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス		
売上収益	10,382	1,218	0	11,600
調整後営業利益	9.4% 980	9.9% 120	-	9.5% 1,100

*1 [調整額]は、セグメント間取引消去額、及び事業セグメントに所属しない全社に係る金額です。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2022. All rights reserved. 32

参考資料4：連結設備投資、減価償却費、研究開発費の実績及び見通し

HITACHI

Reliable solutions

22年度設備投資は、国内工場建屋新設やレンタル事業の拡張を中心として例年以上の投資を織り込む。

1.設備投資（工事ベース）

（単位：億円）

	19年度	20年度	21年度	22年度	22年度	22年度
	実績	実績	実績	1-2Q累 実績	3-4Q累 見通し	見通し
設備投資	472	347	453	349	427	776
貸用営業資産	369	386	443	215	296	511
合計	841	734	896	564	723	1,287

2.減価償却費（有形・無形固定資産）

（単位：億円）

	19年度	20年度	21年度	22年度	22年度	22年度
	実績	実績	実績	1-2Q累 実績	3-4Q累 見通し	見通し
設備投資	342	353	376	199	205	403
貸用営業資産	120	149	179	108	111	219
合計	461	502	555	306	316	623

3.研究開発費

（単位：億円）

	19年度	20年度	21年度	22年度	22年度	22年度
	実績	実績	実績	1-2Q累 実績	3-4Q累 見通し	見通し
グループ合計	237	248	255	117	153	270

日立建機グループでは、持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標のうち、10項目の重点目標を設定しています。

当資料内のトピックスはこの区分に該当するアイコンを表記し、紹介しています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあり得ます。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

【商標注記】

「AERIAL ANGLE」「ConSite」「Solution Linkage」は、日立建機株式会社の登録商標です。

END 日立建機株式会社GOOD DESIGN
AWARD 2022

油圧ショベルZAXIS-7シリーズが
「2022年度グッドデザイン賞」を受賞（2022年10月）